

事例 こころとこころのパイプライン虹

みねやま福祉会（京都府）

〒627-0024 京都府京丹後市峰山町室27番地の2

TEL 0772-62-1251

活動の概要

当園のスーパーバイザー（臨床心理士）は不登校や引きこもり、その他様々なこころの問題を持つ方の相談支援を行っている。しかし、非常に広い地域の方が相談に訪れるため、定期的にカウンセリングルームまで足を運ぶことが困難な方もおられる。カウンセリングルームまで足を運ばなくても継続したケアが行えるよう、当園に近い地域の方には当園の場所を提供し、臨床心理士の指示の下、職員が来談者の状況の把握など臨床心理士との橋渡しの役割を行いながら来談者のこころの回復を願うものである。

法人の概要

1950年、峰山乳児院を創設。その後、法人運営コンセプトとノウハウを高齢者や障害のある方へのサービスに展開し、地域のニーズにあわせ、地域の社会資源としての機能を十分に発揮することを経営方針として柔軟な福祉事業を展開している。サービス提供のすべての場面で「管理より生活を」大切に、「いつでも、どこでも、だれでも」満足のいく福祉サービスが提供できるよう努めている。

- 経営施設数…10
- 法人全体の年間事業収入…965,000千円
- 主な経営施設
 - 乳児院…1
 - 児童養護施設…1
 - 保育所…1
 - 特別養護老人ホーム…1
 - 老人デイサービスセンター…1
 - 在宅介護支援センター…1
 - 障害児通園施設（児童デイサービス事業）…2
 - 認知症対応型老人共同生活援助事業…2
 - 障害者地域生活支援センター…1
 - 小規模多機能型高齢者施設…1

実施施設の概要

- 施設名…障害児通園施設さつき園
- 施設種別…児童デイサービス（定員10名）

施設の運営方針

発達に遅れやつまずきのあるお子さんひとり一人に、「今、何をしてあげたらいいか」を見つけ出し、保護者とともに考えながら一緒に取り組んでいる。乳幼児には発達検査を基に個別プログラムを立て個別に指導を、学童児には集団を活用した表現活動を通して、積極的に子育てを支援している。お子さんの発達を見つめ、ひとり一人に応じた関わりと、ともに歩んでいける家庭、そして地域の環境づくりに努めている。

活動の内容

- 活動対象者…不登校や引きこもりなど、こころの問題を持つ方
- 活動の頻度…1回/週 1回当たり1時間程度
- 年間の利用者…0~80名
- 活動開始年…1998年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当地域の中には、不登校や引きこもり、その

他こころの問題で悩んでおられる方は少なくなく、当地域から、臨床心理士の下へ相談に訪れる方もあった。しかし、来談者が住む地域と臨床心理士がカウンセリングを行うカウンセリングルームは非常に離れており、カウンセリングを受けるためには1時間から2時間をかけて通わなければならなかった。カウンセリングを継続、実施していくには、来談者にとってもっとも近い場所で支援が出来るようにすることが課題となった。そこで、当園の場所を提供し、臨床心理士の指示の下、職員が来談者の状況を聞き取り、把握など臨床心理士との橋渡しの役割を行うことになった。

■人材・賃金面等での工夫、苦慮

活動を始めた当時、本事業（障害児の療育事業）は市町村からの委託であり、園の運営費は市町村からの委託費でまかなわれていた。現在の実施・運営主体は法人であるものの、市町村からの運営費補助を受けながら事業を行っている。本事業以外の「健常児のこころの問題への支援」への取り組みをすることは非常に難しい状況であった。本事業に支障がないように来談の時間を予定することはもちろんのこと、対応する職員も勤務時間外で対応することがしばしばであった。対応する職員は、臨床心理士と連携をとりながら進めてはいるが、来談者と臨床心理士の間で、双方の思いをどうつなげていくのかという難しさや、対応する職員自身の資質も問われる内容であり、未熟と感ずることもあった。

■利用者の声、地域の反応

来談される過程で、不登校だったお子さんが明るくなり、学校へも行けるようになるなど、来談者の姿に改善が見られカウンセリングの終了を迎えられた方もある。そのような時、自分の住んでいる地域に近いところで安

心して相談できたことに感謝のことばをいただくこともある。

このような取り組みが、地域の中で同じ問題を抱えた方にさらに伝わり、当園に相談にこられる方もある。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

来談者の姿に改善が見られたことや、来談者と臨床心理士の取り組みに一役担えたことをとても嬉しく思う。

また、本体事業の中で、保護者を支援するために積極的に研修を積んでカウンセリングの資格取得にも励んできたが、このように地域の中で活かすことができることに喜びを感じている。

当地域内で、不登校やひきこもり等、こころに問題を持たれている方が、年々増加傾向にあると聞く。地域における事業所の活動のあり方を考えるとき、さらに広く対応できるようにしていかなければならないと考えている。自分たちが持っている機能を地域の中で活かすことができるように、より研修を積んでいきたいと思う。